

「道徳なき経済は、犯罪であり、 経済なき道徳は、寝言である」

これは二宮尊徳翁の言葉です。いくら道徳を説いても、生活ができる最低限の経済的な裏づけがなくては、寝言になってしまう。言い換えれば「衣食足りてはじめて礼節を知る」ということです。一方、お金のためには道徳も無視し手段を選ばないのは、犯罪と同じだと言っています。もう一度、江戸時代に活躍した二宮尊徳翁のこの言葉を思い起こしてほしいものです。

明治時代になって、働きながら学ぶ尊徳翁の姿を子どもたちの手本にしようと、教科書にもなるようになり、その後、全国の小学校に、薪を背負い、本を読む二宮尊徳(金次郎)像の建設が広まりました。いまでも数多くの小学校にはこの像が残っているそうです。

尊徳翁は多くの格言を残しています。

「積小為大(せいきしょういだい)」。小さなことを積み重ねることで、大きな成果を得るというこの言葉を私たちも、もう一度噛みしめたいものです。自ら小さな田畑をコツコツと開拓し、親の代にすべてを無くした実家の再興を果たした尊徳翁ならではの深い言葉です。“コツコツ”こそ、成功のための魔法の言葉です。

尊徳翁は誠を尽くして行動し(至誠)、一生懸命働き(勤労)、身の丈に応じた生活をし(分度)、その上で余った利益を他人に譲ること(推譲)を説きます。

経済成長率は鈍化し、世界情勢も不安定となり、国や地方自治体、企業、さらには家庭に至るまで極めて厳しい財政状況に置かれている今こそ、この至誠、勤労、分度、推譲の精神でお互いを励まし合い、努力をし、庇い合いながら乗り切っていきたいものです。

瑞穂市は、今後とも理想的なまちづくり、ひとづくりをしていく上でまず大切なのは財政力です。わが故郷・瑞穂市ですが“経済のない市政は寝言”と言われたいよう、今後とも行財政改革に弛まぬ努力を続けます。その上で学力と道徳力に支えられた日本一元気な“瑞穂”を目指します。



岐阜県瑞穂市市長

森 和之

森和之後援会「瑞穂市の未来を創る会」
後援会長 関谷 均
〒501-0232 瑞穂市野田新田4125-5
Mail : kazuyuki.mori.mizuho@gmail.com

財政 その 検証

瑞穂市市長

森かずゆき



財政 その 検証

財政は市民生活に必要なサービスを提供するうえでの重要な役割。

瑞穂市のまちづくりを実践していくためには、市民の皆さんに瑞穂市の財政状況を知っていただくことが大切であると考えています。市では、これまで「わかりやすい瑞穂市の予算」などを作成し、公表してきましたが、なじみのない聞きなれない用語や数字が並んでいて、より分かりやすく作成するには限界がありました。

予算は「税金をどのように使うのかを決めること」で、決算は「予算をどのように使ったかを確認すること」です。そこで、瑞穂市の財政状況をわかりやすくお知らせすることを考え、わかりやすい言葉で、グラフを交えながら簡潔に表現するように心がけ、「瑞穂市の未来を創る会」の資料として作成しました。

本資料により市民の皆さんが財政だけでなく、行政に関心を持っていただき、少しでも身近に感じていただければ幸いです。



1

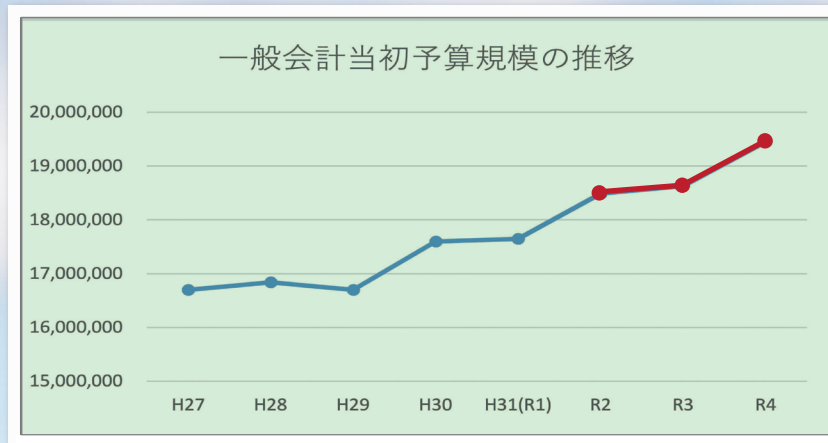
瑞穂市の予算・決算について

A.一般会計の当初予算規模について

予算とは1年間に収入と支出を見積り、どれくらいの市民サービスを行うのか使い道を決めます。

	H27	H28	H29	H30	H31(R1)	R2	R3	R4
一般会計予算(当初)	16,700,000	16,840,000	16,700,000	17,600,000	17,650,000	18,490,000	18,630,000	19,450,000

(千円)



県内住みごごち
ランキングが
2位に!



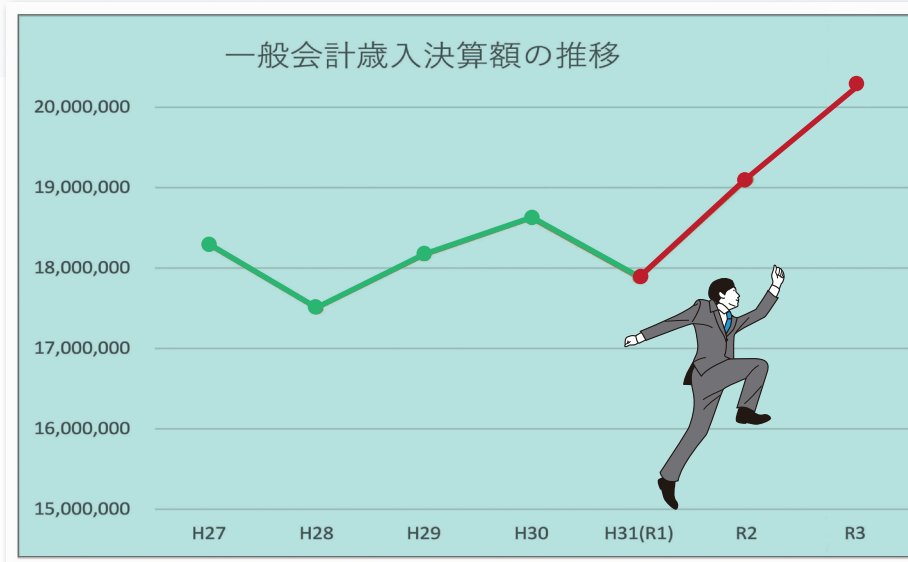
・どうして予算規模を大きくするのですか?

予算規模を大きくすることは、多くの事業を行うことができ、瑞穂市の発展に繋がります。その成果として令和3年度県内42市町村の住みごごちランキングが6位から2位に躍進しました。

B.一般会計の歳入決算額について

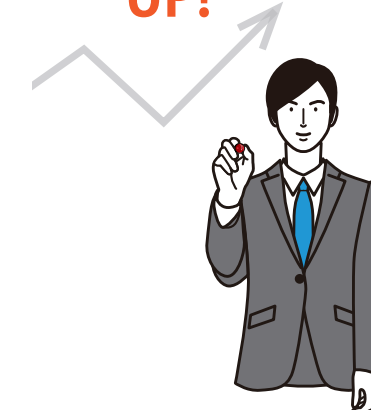
	H27	H28	H29	H30	H31(R1)	R2	R3
一般会計決算額(歳入)	18,291,809	17,501,374	18,162,092	18,623,715	17,879,247	19,100,609	22,825,045

(千円) <コロナ対策費を除く>



コロナ禍にもかかわらず
歳入がV字回復!

UP!



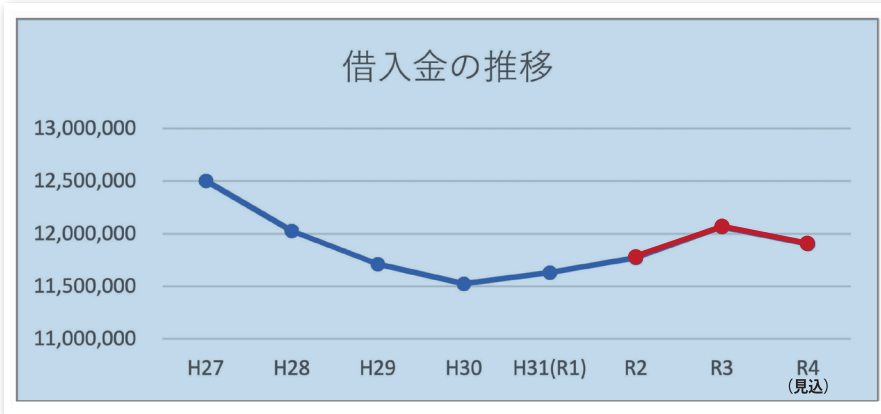
・どうして予算規模を大きくできたのですか?

予算規模を大きくできる背景には、収入の確保ができるから可能になります。グラフでは平成31年度(R1年)に収入が落ち込みましたが、コロナ禍でしたが税、国・県補助金、寄附金が増やすことができ、令和2年度にV字回復することができました。

2 瑞穂市の借金について

	H27	H28	H29	H30	H31(R1)	R2	R3	R4(見込)
起債残高	12,505,068	12,026,217	11,710,391	11,524,902	11,632,441	11,772,339	12,059,595	11,816,939
借入(市債)	1,774,000	1,005,600	1,183,200	1,009,500	1,003,100	1,065,600	1,393,500	—
返済(公債費)	1,507,578	1,566,735	1,565,356	1,251,214	946,374	972,440	1,143,709	—

(千円)



道路、河川、学校や
その他整備のために
使われます。



• どうして借金するのですか？

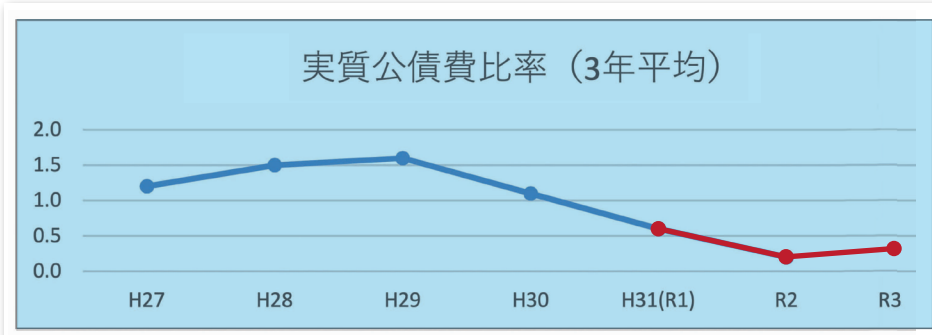
借金は、「現在の市民と将来の市民の負担を公平にする役割」と「毎年の支出を均衡にする役割」があります。また、後の年度に国から交付税として算入される有利な借金があります。瑞穂市の借金はすべて有利な借金となっています。

• 借金は何に使われるいるのですか？

借入は、次世代に負担を残さないことを基本とし、道路、河川、学校などの整備のほかに、国から交付される補助金等の不足分を補うために借りています。この不足分は後の年度に元利とも交付税として国から交付されます。令和4年度には借入残高も減少となる見込みです。



	H27	H28	H29	H30	H31(R1)	R2	R3
実質公債費比率(3年平均)	1.2	1.5	1.6	1.1	0.6	0.2	0.4



負担の少ない
返済を実現
しています。



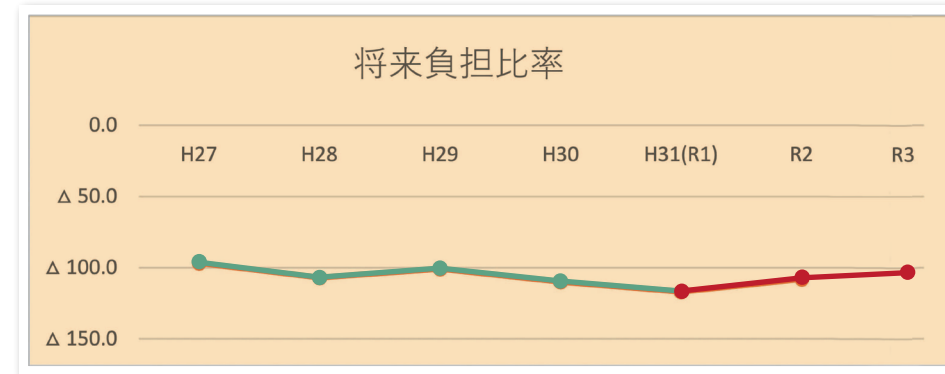
• 実質公債費比率について

実質公債費比率とは、1年間の収入に対して返済額はどれだけの割合になるのか、借金の返済が負担が大きすぎないかチェックするのものです。

• 実質公債費比率の見方は？

実質公債費比率は、18%を超えると借入への制限がかかることになっています。令和2年度、瑞穂市では過去最低となる0.2%になり、県内では2番目に低い比率であり、借金返済が瑞穂市の負担にはならないことがわかります。

	H27	H28	H29	H30	H31(R1)	R2	R3
将来負担比率	△ 96.9	△ 107.1	△ 101.0	△ 110.1	△ 117.0	△ 108.2	△ 107.0



将来の負担がない
健全な瑞穂市を
実現しています。



• 将来の負担は大丈夫ですか？

借金や職員の退職金など、将来支払わなければならない負債の総額が、1年間の収入に対してどれくらいあるのかを判断する基準に「将来負担比率」があります。

• 将来負担比率について

将来負担比率は、瑞穂市ではマイナスとなっています。

• 将来負担比率をわかりやすく教えて？

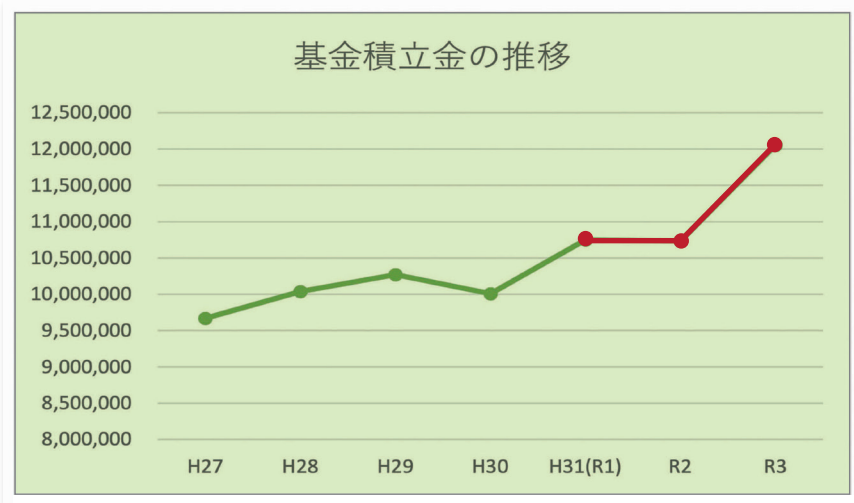
将来負担の総額が年収の3.5倍を超えると危険信号とされています。家計に例えると、住宅や車のローン残高、クレジットカードの支払い残高など、これから返済しないとならないお金の総額が年収の3.5倍を超えると家計が成り立たなくなるというものです。瑞穂市は将来負担比率は、マイナスであり将来負担はありません。



3 瑞穂市の貯金について

	H27	H28	H29	H30	H31(R1)	R2	R3
基金残高	9,668,165	10,037,723	10,270,047	10,006,996	10,749,752	10,737,486	12,065,953
貯金（積立金）	396,486	393,558	499,824	803,169	1,252,139	1,331,126	1,878,516
取崩（繰入金）	280,911	25,063	268,679	1,068,578	521,328	1,387,011	550,049

(千円)



積立基金が過去最大に増えました。



瑞穂市の貯金が増えたのね！



・基金積立金について

市の貯金のことを基金といいます。

災害や急激な経済変動に備えて財政調整基金、老朽化した施設の更新など公共施設整備基金、また特定の目的に応じた基金もあります。

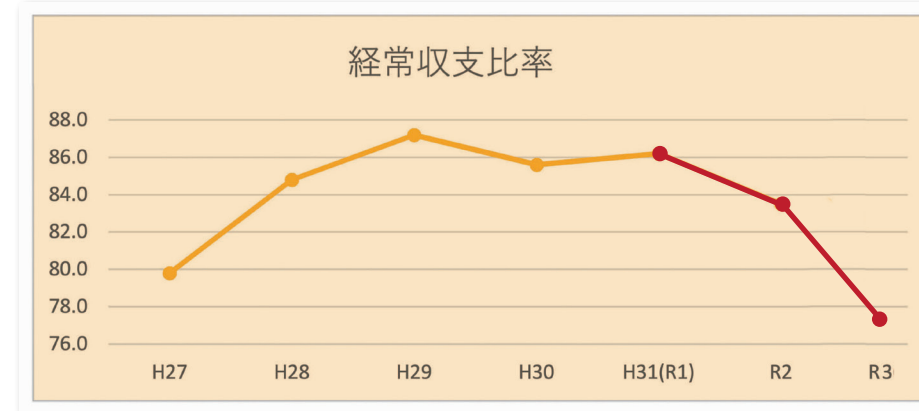
・どうして貯金が増えたのですか？

令和3年度において基金積立金を、13億2846万円も増やし、瑞穂市では過去最大となる120億6595万3千円にすることができました。理由としては税収の安定化と国からの交付金が増えたこと、さらに「ふるさと納税」が好調であったことがあります。



4 人件費など支出が増え、財政に余力がなくなりませんか

	H27	H28	H29	H30	H31(R1)	R2	R3
経常収支比率	79.8	84.8	87.2	85.6	86.2	83.5	76.9



瑞穂市のために使えるお金が5億円増えました！



・経常収支比率について

人件費、借金の元利償還、児童・高齢者・障がいのある方・生活困窮の方への経費（扶助費）が嵩むと、自由に使えるお金が少なくなる（財政の余力）を、「財政の弾力性がない」「財政の硬直化」と表現されます。財政の硬直化を示す指標に、経常収支比率があります。

・経常収支比率をわかりやすく教えて？

経常収支比率は財政の硬直化を示すものですが、見方を変えると「自由に使えるお金がどれくらいあるか」を示すもので財政余力を測ることができます。家計に例えると給料に占める食費やローンの返済額の割合のようなもので、比率が低いと自由に使えるお金が多くなるというものです。瑞穂市では令和2度中に2.7%下がって、自由に使えるお金が約5億円増えたことになります。

5 健全な財政運営のためお金の使い方や集め方を見直しています

指標	単位	現状値(後期計画策定時)	R7	R12
財政力指数	-	0.8	0.8	0.8
実質公債費比率	%	0.6	3.0	3.0
標準財政規模に占める財政調整基金残高割合	%	21.0	20以上	20以上
一般財源における投資的経費に占める公共施設整備基金の割合	%	5.0	1以上	1以上

健全な瑞穂市を目指して財政運営を見直しています。



まちづくりにはお金がかかります。しかし、景気の見通しが見えないなか、福祉や医療など市民生活を支えるお金は今後も増加する見込みです。そこで瑞穂市では健全な財政運営を行いながら、地域資源を活かしたまちづくりを進めるため、お金の使い方と集め方を見直しています。